

# は 確 実

## マス活用

今回導入したバイオマスボイラーはグリーンエナジィ（本社）新潟県十日町市が開発したもので、正式名称は「ACEバイオマスポイラー」。800度C以上の燃焼温度でプロスやラード、木材チップ、RPFなどの廃棄物系バイオマス100%を達したことに

Fなどの廃棄物系バイオマス燃料を燃焼させながら、温水を供給できる。高温燃焼によりダイオキシソ類が分解されるだけでなく、酸性雨の原因となる窒素酸化物(NOx)や硫黄酸化物(SOx)などの有害物質の放出も防ぐ。完全燃焼させるため焼却灰も大幅に減容する。現在、食肉加工品、水産加工品、フリーズドライ食品、菓子などの食品関連メーカーで導入が進んでいる。ボイラーの心臓部となる廃棄物焼却システムは昨

年12月に、グリーンエナジィと開発パートナーの朝田商会が共同で特許(特許4417194号)を取得している。今回のプロジェクトはグリーンエナジィと拓越(本社)新潟県十日町市)がシステムエンジニアとなり、十日町市環境政策室の指導を受けながら効果検証を実施して、システムを構築した。つまり、地元の官民が一体となって取り組んだ環境対策が生んだ大きな成果といえる。(木下猛統)

## 「エコプラザ」新設

ピオファ・ジャパン・オーガニックEXPO 9月21日から

日本最大のオーガニック展示会「ピオファ・ジャパン・オーガニックEXPO 2010」事務局は2月25

日、今年9月21〜23日に東京ビッグサイト東4ホールで開催する同展の概要を紹介した。10回目の開催となる今回はナチュラル&エコプラザを新設し、有機認証製品だけでなく、認証取得に意欲を持つメーカーや環境対策につながる商品にも門戸を開放する。

クールマン代表は「最近数年間にわたり世界的に厳しい経済情勢が続いているが、オーガニックマーケットは食品だけでなく、化粧品やアパレルなど生活全体をコーディネートできるように多様化し、堅調にその規模を拡大してきている」と述べ、展示会でもオーガニックコットンやアロマ・ケア用品など非食品分野に力を入れるとした。今回は

厳しい有機認証には合格していないもののPGS(参加型有機保証システム) Participatory Guarantee System)のような意欲的製品を扱う業者も参加できるナチュラル&エコプラザを設置する予定だ。最終日9月23日は「秋分の日」で休日となるため、一般消費者やプロシユーマー(生産活動に携わる消費者)をターゲットに幅広い層に集客を行う予定で、300社200小間の出展と3万人の来場者を見込んで

「PGS」有機農産物の国際取引では、第三者機関による有機認証が大きな役割を果たしているが、高い認証費用と膨大な書類作成などの手間を伴う。そのため、小規模零細農家にとって国際市場参加のハードルは極めて高い。PGSはその認証を当事者間で補うことで、取引を円滑に進めようという考え方。IFOAMなどがこの運動をサポートし、途上国の農業を支える有力な手段として期待されている。

## 確保狙う

### 社ISO取得へ

数量は2〜3トン。社長は2月25日、前期について「厳格に、前年に続き、さら

う努力していくと語った。今期の原材料コスト変動に関しては「主原料の小麦は若干下がる。だがすでに砂糖は値上がり、エネルギーコストも全体的には上昇傾向だ。トータルでは若干

同展を主催するニルンベルクグローバルフェア・日本事務所のハイソツ・

力をいれるとした。今回は

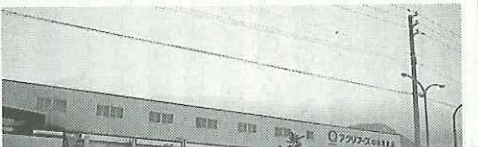
## 最多の13社が参加

北を拓く道産ワインの夕べ

過去最多のメーカー13社が参加した「第15回北を拓く道産ワインの夕べ」

かねこみそ  
母から娘につたえる味  
かねこみそ株式会社  
TEL.088692-2611  
TEL.03-3269-5656

XPO事務局(03・5369・6788、FAX03・53669・7759)まで。(三輪周二) 夕張工場でISO 22000を取得 アクリフーズ マルハニチログループの冷食メーカーであるアクリフーズは2月2日、夕張工場(写真)で食品安全に関する国際マネジメントシステムISO22000の認証を取得した。登録活動範囲は「冷凍食品の製造」。同社はすでに昨年1月、本社ならびに群馬工場と同じシステムの認証を取得してい



る。今回、国内拠点である夕張な生産・品質管理められた。これ工場すべてで取った冷食を生産はグラタン、フ華まんじゅうなしている。田辺裕社長はとして「安全・マーケットの要質保証体制をさる」と述べた。を機に「今後も質向上に努め、人に食べさせた事業ビジョンの様に満足いただける提供していく